

# 忠魂碑

児童センター裏の小高い丘を登りつめると、整備された公園があります。美祢市街を見下ろすこの場所に、維新戦争から第2次世界大戦までの美祢市内の戦没者の忠魂碑がそびえ立っています。

この美祢も数々の戦争と無縁ではありませんでした。昭和16年の初めから、美祢市もしいに戦時体制に組み込まれていき、町や村からの出征兵士も増加の一途をたどりました。農村では労働力の不足をきたし、食料増産に大きな影響を与えました。そのため、学校の児童も増産に動員されたそうです。

戦況が悪化し、日本国内での空襲が広がる中、美祢市内にはそうした被害はありませんでしたが、県内各地での空襲による被害は増大し、昭和20年4月には伊佐小学校に30余名の疎開児童が入校したそうです。

昭和17年6月のミッドウエー海戦での大敗、18年5月のアッツ島玉砕、19年7月のサイパン島玉砕と戦局は悪化。美祢市の戦没者は640人にのぼりました。この中には、満蒙開拓青年義勇軍や女子挺身隊、また、終戦後のシベリア収容所での戦死者も含まれています。



## 【参考文献】

美祢地方歴史物語（瀬戸内物産出版部 1993年）

続・美祢市民戦争体験記「五十年目の証言」（五日の会編 1995年）

続々・美祢市民戦争体験記「六十年目の証言」

（五日の会編 2005年）

美祢市史（美祢市史編集委員会編 1982年）